

タイトル「**2024年度大学院スポーツ科学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院スポーツ科学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	スポーツ科学総論 1		
担当教員	松尾 絵梨子,小松 泰喜,森丘 保典,辰田 和佳子,布袋屋 浩		
対象学年	1年,2年	開講学期	前期
曜日・時限	土 1		
講義室	1007	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類			
科目中分類			
科目小分類			
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1. 多文化、異文化を理解し、グローバル化する知識基盤社会の一員、スポーツに関わる一員として自らの意見を表現することができる（40%）。 DP2. 知識基盤社会の構成員として自らの専門における研究能力のみならず、確かな教養と高い倫理感を持ち、論理的な思考力を有し、スポーツにおける競技スポーツの位置づけ及び意味について自らの意見を説明できる（30%）。 DP3. スポーツに携わる中で、自らが発見した問題や直面した問題に対し、専門的な知識・技能を用いて主体的にかつ協働して体系的な解決策を見だし、それを遂行することができる（30%）。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識－10% E1学識と専門技能－30% F1探求と論拠－10% G1状況把握－10% H1論理的思考－20% I3情報分析－20%		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	「スポーツ科学総論 1」では、スポーツ科学における競技力向上に関するスポーツバイオメカニクス、運動生理学、さらにトレーニングや競技復帰までのリハビリテーションやスポーツ栄養学などエビデンスに基づいた具体的な手法について、最新のスポーツ科学の国内外の知見を理解し学修する（オムニバス方式/全 1 5 回）。 （森丘保典（3 / 1 5）スポーツ科学研究法の基礎として、競技力向上に関するスポーツバイオメカニクスについて、国内外の知見を整理し、文献集としてまとめる。 （松尾絵梨子（3 / 1 5）スポーツ科学研究法の基礎として、競技力向上に関する運動生理学について、国内外の知見を整理し、文献集としてまとめる。 （辰田和佳子（3 / 1 5）スポーツ科学研究法の基礎として、競技力向上に関するスポーツ栄養学について、国内外の知見を整理し、文献集としてまとめる。 （小松泰喜（3 / 1 5）スポーツ科学研究法の基礎として、技力向上に関するスポーツリハビリテーションについて、国内外の知見を整理し、文献集としてまとめる。 （布袋屋浩（3 / 1 5）スポーツ科学研究法の基礎として、競技力向上に関するスポーツ医学について、国内外の知見を整理し、文献集としてまとめる。 （キーワード）・自然科学科目、運動生理学特論、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ医学特論、スポーツ栄養学特論、スポーツリハビリテーション特論		
授業の趣旨	■副題 スポーツ科学として、競技力向上に関する運動生理学、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ医学特論、スポーツ栄養学特論、スポーツリハビリテーション特論の自然科学・医科学領域における、最新の国内外の知見を理解するための文献検索方法を身につける。したがって、「スポーツ科学総論 1」では、情報収集の取得として必要な検索エンジンとその種類（pubmed,jDrearm,医中誌など）を学修し、高度な検索方法を習得する。 ■授業の到達目標 授業では、文献をまとめたうえで「この論文の情報をいかに競技力向上等のスポーツ科学に生かすことができるか」という自身の見解と研究課題の設定や研究計画書の作成を意識した検索と収集ができる能力を身につける。 ■授業の目的 各自の研究の基盤となる、豊富な文献集を作成し、研究計画書の作成に向けた準備作業とし、過去の研究論文を整理・考察の他、新たな論点・主張を提示することを学修する。また、スポーツ科学研究に関連する諸領域を対象とすることから、スポーツ科学研究法と関連し、研究課題を導くための所作としての文献レビュー（文献研究）として、システマティック・レビューやメタアナリシスを意識し、文献収集の重要性を身につける。 ■授業のポイント 「スポーツ科学総論 1」である本科目では、① 3～5 年以内の論文を選出し、話題（トピック）になっている新しい知見を得ること、② アブストラクト（要旨）の内容から論文を取捨選択する、③ アブストラクト（要旨）から論文を 5～1 0 本以上は抽出すること、④ 最も重要視する点は、「結果」の記述であり、図表によるその説明は事実として揺るがないものであることから、結果を示す図表から理解しやすい記述内容に伴う論文構成の成り立ちを学修する。文献抄読のまとめは、一般的に Word や Excel などを使用する他、プレゼンテーションには PowerPoint を使用する。基本的にタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をまとめ、詳細は参照できるように雑誌名や著者、発表年の情報が必ず含まれるような記述方法を身につけることを目標にする。		
総合到達目標	■「スポーツ科学研究法」の到達目標は、システマティック・レビューとメタアナリシスなどの高度な文献研究を学修することだが、当該授業では、文献収集（文献研究）の価値を知り、自然科学・医科学領域における論文のタイトル（＝研究課題）・目的・対象・方法（＝研究計画）・結果・考察という構成について深く学修する。 ■先行研究の調査により文献を読み、それらの文献情報を Excel でまとめることを学修する。 ■運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ医学やスポーツ栄養学、そして競技復帰までのリハビリテーションなどエビデンスに基づいた具体的な手法について、最新のスポーツ科学の国内外の知見の論文等、情報を収集し学修する。		
成績評価方法	■取捨選択した文献について文献抄読によるプレゼンテーション：5 回（4 0 %）適応 DP-1（評価の観点）定期的な文献抄読を授業内で実施し、文献の研究目的や図表等を理解・解釈されたプレゼンテーションができているかを評価する（フィードバックの方法）授業時間中に「講評」を行います。 ■文献検索による文献から、研究課題の設定や研究計画書の作成を視野に文献集の作成を行う：1 回（3 0 %）適応 DP-2（評価の観点）設定されたキーワードに沿った文献を収集し一覧表になるように文献集としてまとめられているかを評価する。（フィードバックの方法）授業時間中に「講評」を行います。 ■作成された文献集に関して、比較検討や評価を行った結果をレポートとしてまとめる：1 回（3 0 %）適応 DP-3（評価の観点）文献集からより質の高い論文の収集ができ、的確かつ論理的な論述ができるかを評価します。（フィードバックの方法）レポートの答案を確認し、自主学習につながるように指導を行います。		
履修条件	特になし		
履修上の注意点	特になし		
授業内容	回	内容	
	1	①授業テーマ 「スポーツ科学総論 1」ではスポーツ科学研究としての文献レビュー（文献研究）から電子媒体（インターネット等）の利用の仕方について習得し、検索エンジンなどデータベースの代表である PubMed や MEDLINE などを使用した各領域分野の高度な文献検索の方法を実践を学修します。	

[illegible]

		する当該授業ではより高度な検索ができるようにキーワード検索による文献から文献集の作成手順を身につける。 ③予習（１２０分）検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分）図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。 【担当教員：布袋屋 浩】
11		①授業テーマ スポーツ医学研究（第２回）を題材とした文献により、検索エンジン（電子媒体（インターネット等）を利用したキーワード検索によって、文献収集を行う。 ②授業概要 文献検索のキーワードを選定し、検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどから高度な文献検索の方法を学修します。また、同時に進行する「スポーツ科学研究」では文献レビュー（文献研究）から電子媒体（インターネット等）の利用の仕方について理解することから（DP-1）、関係する当該授業ではより高度な検索ができるようにキーワード検索による文献から文献集の作成手順を身につける。 ③予習（１２０分）検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分）図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。 【担当教員：布袋屋 浩】
12		①授業テーマ スポーツ医学研究（第３回）を題材とした文献により、検索エンジン（電子媒体（インターネット等）を利用したキーワード検索によって、文献収集を行う。 ②授業概要 文献検索のキーワードを選定し、検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどから高度な文献検索の方法を学修します。また、同時に進行する「スポーツ科学研究」では文献レビュー（文献研究）から電子媒体（インターネット等）の利用の仕方について理解することから（DP-1）、関係する当該授業ではより高度な検索ができるようにキーワード検索による文献から文献集の作成手順を身につける。 ③予習（１２０分）検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分）図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。 【担当教員：布袋屋 浩】
13		①授業テーマ スポーツリハビリテーション研究（第１回）を題材とした文献により、検索エンジン（電子媒体（インターネット等）を利用したキーワード検索によって、文献収集を行う。 ②授業概要 文献検索のキーワードを選定し、検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどから高度な文献検索の方法を学修します。また、同時に進行する「スポーツ科学研究」では文献レビュー（文献研究）から電子媒体（インターネット等）の利用の仕方について理解することから（DP-1）、関係する当該授業ではより高度な検索ができるようにキーワード検索による文献から文献集の作成手順を身につける。 ③予習（１２０分）検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分）図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。 【担当教員：小松 泰喜】
14		①授業テーマ スポーツリハビリテーション研究（第２回）を題材とした文献により、検索エンジン（電子媒体（インターネット等）を利用したキーワード検索によって、文献収集を行う。 ②授業概要 文献検索のキーワードを選定し、検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどから高度な文献検索の方法を学修します。また、同時に進行する「スポーツ科学研究」では文献レビュー（文献研究）から電子媒体（インターネット等）の利用の仕方について理解することから（DP-1）、関係する当該授業ではより高度な検索ができるようにキーワード検索による文献から文献集の作成手順を身につける。 ③予習（１２０分）検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分）図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。 【担当教員：小松 泰喜】
15		①授業テーマ これまで同様、スポーツリハビリテーション研究（第３回）を題材とした文献により、検索エンジン（電子媒体（インターネット等）を利用したキーワード検索によって、文献収集を行う。また、授業科目の最終回であることもあり、文献集の作成方法について ②授業概要 これまでの授業内容から文献集の作成を学修します。基本的に著者・雑誌名・報告年、研究目的、対象者・疾患、介入方法、観察期間、主な評価項目、結果、結論の記述方法について身につけます（DP-3）。文献集は、以下の観点から整理をするようにする。１）研究タイトル、２）自身の研究課題の設定のため、３）自身の研究の目的を明確にする、なぜこの研究をするのかの背景を整理する。４）どのように研究を進めるのかの研究方法を示す。５）予想される成果や仮説、６）研究の特徴を記述するようにする。尚、研究実施に当たり、この文献集を作成するために必要とされ、参考にする論文や専門書は原文を資料して文献収集すること。 ③予習（１２０分） 検索エンジンであるPubMed・J-STAGE・CiNiiなどいくつかの検索エンジンから実際のキーワード検索を実践し、文献集作成のためのタイトル・目的・対象・方法・結果・考察の概要をダウンロードし、Excelなど特定のソフトウェアを利用しまとめてくること。 ④復習（１２０分） 図書館やインターネットなどの環境から効率よく検索でき、中でも論文をいくつか用意し、そこに記述されていることを批判的（クリティカル）に解釈することを行い、研究課題の設定や研究計画書の策定に役立つ新たな知見を得、研究のために情報を精査する。その上でスポーツ科学研究法と関連し、さらに質の高い研究であり、精度をさらに高めさらに実現可能性のあるものにしていく。 【担当教員：小松 泰喜】
関連科目		
教科書		
参考書・参考URL		PubMed : https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed J-stage : https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/ Ciinii : https://ci.nii.ac.jp/
連絡先・オフィスアワー		
研究比率		